

「田川高校創立 100 周年」

岳陽会関西支部

会長 井上 善雄（高校 31 回）

田川高校創立 100 周年おめでとうございます。創立以来、田川高校の発展・成長にご尽力されてこられた全ての方々に心より感謝と敬意を表します。

関西岳陽会は、昨年 10 月の役員交代によって新体制がスタートしました。役員の平均年齢もぐっと下がり「明るく楽しく元気よく！」をモットーに、更なる発展に向け活動しています。今年の関西岳陽会は 9 月 23 日に大阪第一ホテルで開催します。進む道は違えどもここに来ると同窓生、高校時代にほとんど話をしたことがなかった同級生とも在学を共にできなかった先輩や後輩とも話が弾みます。毎年田川から参加されている岳陽会当番期の方々のパフォーマンスと田川の言葉に懐かしさの花が咲き、話が盛り上がります。関西以外の方の参加を大歓迎していますので、是非お気軽にご参加ください。

創立 100 周年を迎えるこの年、高校 31 回卒業の私にとって中途半端な感じが否めなかった「記念すべき 60 回目卒業生」と言われたあの日から 38 年が経ちます。久々に帰省すると、古里で目にする変化に時の流れを感じます。卒業当時、経済学者ガルブレイスの「不確実性の時代」という本が出版され、不確実という言葉がはやりました。何が起こるのかさえ予測できないこと指しますが、それはいつの時代も同じです。古くは、鴨長明が方丈記で「ゆく河の流れは絶えずして、しかも元の水にあらず」と謳いました。いつの時代も「常に変化している」ことだけが確実な真実であり、だからこそ生物学者ダーウィンは「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である」と言い、変化こそが生き残るための条件と説きました。

これからの 100 年に向けて新たなスタートラインに立った田川高校は、どのように変化していくのか、岳南魂の申し子たちは水平線上にどのような突起を作るのか。これからの発展を応援したいと思います。